

プロフェッショナルデジタルスキル試験（仮称） 情報処理安全確保支援士試験

科目 A-1（共通知識）シラバス（案）

－ 情報処理技術者試験・情報処理安全確保支援士試験における出題範囲の細目 －

Ver.0.1

- 本資料の内容は公表時点の検討状況に基づくものであり，変更する可能性があります。



独立行政法人
情報処理推進機構
Innovation Platform Agency, Japan

Beyond Digital

本シラバスに記載されている会社名又は製品名は、それぞれ各社又は各組織の商標又は登録商標です。
なお、本シラバスでは、® 及び TM を明記していません。

■ はじめに

本シラバスは、プロフェッショナルデジタルスキル試験（仮称）及び報処理安全確保支援士試験の科目 A-1（共通知識）の出題範囲¹⁾を詳細化し、目標とする知識の幅と深さを明確化したものです。

知識の習得を目指して試験を受験する方々にとっての学習指針として、また、組織（企業、学校など）における人材育成及び教育の指導指針として活用されることを想定しています。

なお、本シラバスは、ビジネス環境の変化、デジタル技術の動向などを踏まえて、内容の追加、変更、削除などの見直しを適宜行います。

1. 本シラバスにおいて示す内容

【目標とする知識（重点分野）】※科目 A-1 の出題範囲の細目。

大分類○：XXXXXXXXXX 中分類○：XXXXXXXXXX		
【内容】 ・XX		
小分類	項目	用語例
大分類○：XXXXXXXXXX 中分類○：XXXXXXXXXX		
【内容】 ・XX		
小分類	項目	用語例

【目標とする知識（その他の分野）】※科目 A-1 の出題範囲の細目。

大分類○：XXXXXXXXXX 中分類○：XXXXXXXXXX		
【内容】 ・XX		
小分類	項目	用語例
大分類○：XXXXXXXXXX 中分類○：XXXXXXXXXX		
【内容】 ・XX		
小分類	項目	用語例

注¹⁾「情報処理技術者試験・情報処理安全確保支援士試験 出題範囲等の改定案

<https://www.ipa.go.jp/shiken/syllabus/henkou/2025/rcu1hd0000008574-att/shinshiken-hani-kaiteian.pdf>

【目標とする知識（重点分野）】

大分類 6：セキュリティ 中分類 23：情報セキュリティの脅威

【内容】

・情報システムを取り巻くセキュリティの脅威や攻撃の特徴・動向を理解し、適切なセキュリティ対策の検討・実施を行う又はそれらを支援するために必要な、情報セキュリティの脅威についての共通的知識を問う。

小分類		項目	用語例
1	脅威と脆弱性 ^{ぜい}	脅威の種類と動向	不正アクセス、なりすまし、改ざん、エラー、ビジネスメール詐欺（BEC）、アクセス権の誤設定、ソーシャルエンジニアリング、情報漏えい、踏み台、脅威モデリング
		マルウェア・不正プログラム	遠隔操作型ウイルス（RAT）、リバースシェル、ランサムウェア、インフォスティーラー、ステルス技術（ポリモーフィック型、メタモーフィック型 など）、ファイルレスマルウェア、エクスプロイトコード
		脆弱性	セキュリティホール、人的脆弱性、内部統制の不備、シャドーIT、認可・権限・アクセス制御の不備、不適切な入力確認、OWASP Top 10
		不正の動機・メカニズム	ボットハーダー、ダークウェブ、ハクティビズム、リークサイト、不正のトライアングル、RaaS（Ransomware as a Service）、割れ窓理論
2	攻撃手法	攻撃のライフサイクルとフレームワーク	サイバーキルチェーン、MITRE ATT&CK（戦術、技術、手順（TTP））、フットプリンティング、ポートスキャン、権限昇格、ラテラルムーブメント
		資格情報・セッション管理の不備を狙った攻撃	総当たり攻撃（ブルートフォース攻撃）、レインボーテーブル攻撃、クレデンシャルスタッフィング、セッションハイジャック
		アプリケーションの不備を狙った攻撃	SQL インジェクション、HTTP ヘッダインジェクション、OS コマンドインジェクション、クロスサイトスクリプティング、クロスサイトリクエストフォージェリ（CSRF）、サーバサイドリクエストフォージェリ（SSRF）、ディレクトリトラバーサル、バッファオーバーフロー、オープンリダイレクトの悪用
		信頼を悪用した攻撃	中間者（Man-in-the-middle）攻撃、第三者中継（オープンリレー）、IP スプーフィング、フィッシング（スミッシング など）、標的型攻撃
		サービスの妨害を狙った攻撃	DoS 攻撃、DDoS 攻撃、リフレクション攻撃（DNS アンプ攻撃 など）、DNS 水責め攻撃

		AI システムに対する攻撃	プロンプトインジェクション（直接，間接），ジェイルブレイク，敵対的サンプル（Adversarial Examples），データポイズニング，モデルインバージョン攻撃
		サプライチェーンを狙った攻撃	ソフトウェアサプライチェーン攻撃（アップデート配信経路の悪用 など）
		その他・特殊・高度な攻撃	ゼロデイ攻撃，サイドチャネル攻撃，サービス及びソフトウェアの機能の悪用
大分類 6：セキュリティ 中分類 24：情報セキュリティマネジメント			
【内容】			
・情報資産に対するリスクを評価し，組織の規程（権限管理，リスク対応策，インシデント発生時の対応など）に基づいて情報セキュリティマネジメントを推進する 又はそれを支援するために必要な，情報セキュリティマネジメントに関する共通的知识を問う。			
小分類		項目	用語例
1	情報セキュリティの考え方	情報セキュリティの考え方	機密性，完全性，可用性，真正性，責任追跡性，否認防止，信頼性，多層防御（Defense in Depth），ゼロトラスト，セキュリティバイデザイン，セキュアバイデフォルト
		情報セキュリティマネジメントの考え方	情報セキュリティ事象，情報セキュリティインシデント，利用者アクセス権の管理（need-to-know の原則 など），クラウドサービスの責任共有モデル，外部委託やクラウドサービス・生成 AI サービスの利用時における情報セキュリティ，サイバーハイジーン
2	リスクマネジメント	情報資産とリスク	情報資産を取り巻く脅威，リスクの種類（オペレーショナルリスク，サプライチェーンリスク，外部サービス利用のリスク，SNS による情報発信のリスク，地政学的リスク など）
		情報セキュリティリスクアセスメント	リスク基準（リスク受容基準，情報セキュリティリスクアセスメントを実施するための基準），リスクアセスメントのプロセス（リスク特定，リスク分析，リスク評価），リスクの定性的分析，リスクの定量的分析
		情報セキュリティリスク対応	リスクコントロール，リスクヘッジ，リスクファイナンス，リスク登録簿
3	情報セキュリティ諸規程	情報セキュリティポリシーを含む組織内規程	情報セキュリティ方針（情報セキュリティポリシー），情報管理規程，秘密情報管理規程，文書管理規程，情報セキュリティ教育の規程，プライバシーポリシー（個人情報保護方針）
4	情報セキュリティ関連組織・関連制度	情報セキュリティに関する組織・機関	CSIRT，PSIRT，SOC（Security Operation Center），サイバーセキュリティ戦略本部，国家サイバー統括室（NCO），JPCERT コーディネーションセンター，CRYPTREC，米国国立標準技術研究所（NIST）
		情報セキュリティに関する制度・基準	コンピュータ不正アクセス届出制度，ソフトウェア等の脆弱性関連情報に関する届出制度，情報セキュリティ早期警戒パートナーシップガイドライン，情報セキュリティサービス基準，サプライチェーン強化に向けたセキュリティ対策評価制度（SCS 評価制度），ISMAP（政府情報システムのためのセキュリティ評価制度），PCI DSS，NIST サイバーセキュリティフレームワーク（CSF）

5	情報セキュリティ マネジメントシ ステム	情報セキュリティマネジメントシステム	ISMS 適用範囲，パフォーマンス評価（内部監査 など），継続的改善，情報セキュリティ管理策， 管理策タイプ（予防，検知，是正），JIS Q 27017（ISO/IEC 27017）
6	情報セキュリティ 管理策	組織的管理策	〔資産管理〕 情報の分類，情報のラベル付け 〔アクセス制御〕 識別情報の管理，認証情報，アクセス権 〔供給者管理〕 供給者関係における情報セキュリティ，ICT サプライチェーンにおける情報セキュリティの管 理，クラウドサービスの利用における情報セキュリティ
		人的管理策	情報セキュリティの意識向上・教育・訓練，秘密保持契約又は守秘義務契約，リモートワーク，情 報セキュリティ事象の報告
		物理的管理策	物理的セキュリティ境界，クリアデスク・クリアスクリーン，装置の設置及び保護，構外にある資 産のセキュリティ，記憶媒体，ケーブル配線のセキュリティ，装置の保守，装置のセキュリティを 保った処分又は再利用
		技術的管理策	〔情報アクセスの管理〕 利用者エンドポイント機器，特権的アクセス権，情報へのアクセス制限，ソースコードへのアク セス，セキュリティを保った認証 〔情報資産運用に関する管理〕 マルウェアに対する保護，技術的脆弱性の管理，構成管理，データマスキング，データ漏えい防 止，情報のバックアップ，情報処理施設・設備の冗長性，ログ取得，特権的なユーティリティプ ログラムの使用，運用システムへのソフトウェアの導入 〔情報システムの適正利用の管理〕 ネットワークセキュリティ，ネットワークサービスのセキュリティ，ウェブフィルタリング 〔情報システム開発・導入の管理〕 アプリケーションセキュリティの要求事項，セキュリティに配慮したシステムアーキテクチャ 及びシステム構築の原則，セキュリティに配慮したコーディング，開発及び受入れにおけるセキ ュリティテスト，外部委託による開発

大分類 6：セキュリティ 中分類 25：情報セキュリティ対策

【内容】

・組織の情報セキュリティを確保するために、技術的・管理的な情報セキュリティ対策を選択・適用する又はそれを支援するために必要な、情報セキュリティ対策に関する共通の知識を問う。

小分類		項目	用語例
1	組織的管理策に関する技術・手法	脅威インテリジェンス	脅威ハンティング (Threat Hunting), テイクダウン
		インシデント管理	インシデントハンドリング, インシデント対応プロセス (準備, 検知・分析, 封じ込め・根絶・復旧, 事後対応)
2	人的管理策に関する技術・手法	人的管理	組織における内部不正防止ガイドライン, 情報セキュリティ訓練 (標的型メールに関する訓練 など), セキュリティクリアランス, 秘密保持契約・誓約書
3	物理的管理策に関する技術・手法	物理的領域の管理	セキュリティゾーニング, 入退管理システム, アンチパスバック
4	技術的管理策に関する技術・手法 (情報アクセスの管理)	情報へのアクセス制限	最小特権, ストレージ暗号化, ファイル暗号化, データベース暗号化
		認証・署名	デジタル署名, メッセージダイジェスト, メッセージ認証符号 (MAC), HMAC, コードサイニング, DNSSEC
		利用者の認証・認可・ID 連携	Kerberos 方式, アイデンティティ連携 (OpenID Connect, SAML, OAuth 2.0, IdP (Identity Provider)), IDaaS (Identity as a Service)
		生体認証	行動的特徴 (声紋認証, 署名認証, キーストローク認証 など), 等価誤り率 (EER), ライブネス検知
		パスワードレス認証	FIDO2, WebAuthn
5	技術的管理策に関する技術・手法 (情報資産運用に関する管理)	マルウェアに対する保護	[マルウェア・不正プログラム対策] マルウェア検出手法 (ヒューリスティック法), 未知マルウェア検出手法, 動的解析, 静的解析 [ランサムウェア対策] データのバックアップ, バックアップ分離, 3-2-1 ルール, WORM (Write Once Read Many) 機能, イミュータブルバックアップ

		脆弱性管理・データ保護	脆弱性管理, DLP (Data Loss Prevention)
		ログ管理・監視・検知及び対応	SIEM (Security Information and Event Management), EDR (Endpoint Detection and Response), XDR (Extended Detection and Response), SOAR (Security Orchestration, Automation and Response), MDR (Managed Detection and Response)
6	技術的管理策に関する技術・手法（情報システムの適正利用の管理）	ネットワークセキュリティの方式・制御	[境界における通信の制御] ファイアウォール, IDS（侵入検知システム）／IPS（侵入防止システム）, VPN [内部ネットワークへの接続の制御] 検疫ネットワーク, MAC アドレスフィルタリング [公開サービスの保護] リバースプロキシ, DDoS 対策
		ネットワークセキュリティの技術規格・プロトコル	[通信の暗号化] TLS, IPsec, QUIC [認証基盤] IEEE 802.1X, EAP (Extensible Authentication Protocol), EAP-TLS [無線 LAN セキュリティ] WPA3 (Enhanced Open) [電子メールセキュリティ] 送信ドメイン認証 (SPF, DKIM, DMARC (ポリシー (none, quarantine, reject), 集約レポート))
		ネットワークセキュリティの製品・サービス	[境界防御・アプリケーション保護] 統合脅威管理 (UTM), WAF (Web Application Firewall), 許可リスト (アローリスト／パスリスト), 拒否リスト (ブロックリスト) [クラウド・SaaS] CASB (Cloud Access Security Broker), SASE (Secure Access Service Edge)
7	暗号技術（技術的管理策のうち「暗号の利用」に対応）	暗号方式の種類・鍵管理	[暗号方式の種類] 共通鍵暗号方式, 公開鍵暗号方式 (RSA 暗号 など), 楕円曲線暗号, 鍵共有, Diffie-Hellman (DH) 鍵共有方式 [鍵と乱数の管理] 鍵管理, 鍵のライフサイクル (生成, 保管, 廃棄), 危殆化

		ハッシュ関数	第二原像発見困難性，衝突発見困難性
		共通鍵暗号	ブロック暗号（AES（Advanced Encryption Standard） など），ストリーム暗号，暗号利用モード
		公開鍵基盤	公開鍵基盤（PKI），認証局（CA），デジタル証明書（公開鍵証明書），ルート証明書，政府認証基盤（GPKI），証明書失効リスト（CRL），コードサイニング証明書
		応用的な暗号技術	ゼロ知識証明，耐量子計算機暗号（PQC）
大分類 6：セキュリティ 中分類 26：セキュリティ実装技術・評価			
【内容】			
・システム開発において，セキュリティ対策を対象システムに適用するとともに，その効果を適切に評価するために必要な，セキュリティ実装技術及び評価に関する共通の知識を問う。			
	小分類	項目	用語例
1	セキュア開発・実装	セキュリティに配慮したシステムアーキテクチャ及びシステム構築	ゼロトラストアーキテクチャ（ZTA），AI を使ったセキュリティ技術（AI for Security）
		AI システムを守るための対策（Security for AI）	プロンプトインジェクション対策，LLM の脅威への対策（入力されたプロンプトの検証，外部参照データの分離，RAG 用のデータ及びデータストアへのアクセス制御）
		アプリケーション開発のセキュリティ	脆弱性検査技術（ソースコード静的検査（SAST），プログラムの動的検査（DAST），ファジング など），クロスサイトスクリプティング対策，SQL インジェクション対策（プレースホルダ など），バッファオーバーフロー対策，パスワードクラック対策，CORS（オリジン間リソース共有），HSTS（HTTP Strict Transport Security），CSP（Content Security Policy）
		クラウド・コンテナのセキュリティ	責任共有モデルに基づく役割分担，クラウドの設定不備（公開設定，権限設定），コンテナイメージの脆弱性管理
		ハードウェアのセキュリティ	セキュアエレメント，TPM（Trusted Platform Module），セキュアブート（UEFI），耐タンパ性
		IoT・制御システムのセキュリティ	IoT のセキュリティ，制御システムのセキュリティ，ファームウェアのセキュアアップデート，IT 製品の調達におけるセキュリティ要件リスト
2	フォレンジック	マルウェア解析	サンドボックス，ハニーポット
3	セキュリティ評価	脆弱性評価	SBOM を利用した脆弱性管理，JVN（Japan Vulnerability Notes），共通脆弱性評価システム（CVSS），共通脆弱性識別子（CVE），共通脆弱性タイプ一覧（CWE），セキュリティ設定共通化手順（SCAP），脆弱性診断，ペネトレーションテスト
		コモンクライテリア	コモンクライテリア（CC），ISO/IEC 18045，評価保証レベル（EAL），JISEC（IT セキュリティ評価

			及び認証制度)
		暗号モジュールの評価	JCMVP (暗号モジュール試験及び認証制度)

【目標とする知識（その他の分野）】

大分類1：ビジネス変革 中分類1：ビジネス変革の方法論			
【内容】 ・様々な環境変化に適応し、組織及びビジネスの変革や新たな価値の創出を推進する又はそれを支援するために必要な、ビジネス変革の方法論に関する共通的知识を問う。			
小分類		項目	用語例
1	社会変化の動向	社会の変化	AI トランスフォーメーション (AX), フロンティア AI の影響, 信頼性のある自由なデータ流通 (DFFT)
		顧客価値の変化	消費行動 (モノ消費, コト消費, イミ消費, エシカル消費)
		競争環境の変化	クリエイターエコノミー, デジタルディストラクション
2	イノベーションマネジメント	イノベーションマネジメント	イノベーションマネジメントの原理原則, イノベーションマネジメントシステム, 不確実性及びリスクのマネジメント
3	イノベーション戦略	イノベーション戦略の理論	イノベーションの5 類型 (プロダクトイノベーション, プロセスイノベーション, マーケットイノベーション, サプライチェーンイノベーション, オーガナイゼーションイノベーション), ラディカルイノベーション, 両利きの経営, イノベータ理論, コーポレートベンチャーキャピタル, インキュベーター, 価値創出の三要素 (技術・製品価値創造, 価値実現, 価値利益化)
		イノベーション戦略の立案	PoC (概念実証), PoV (価値実証), PoB (Proof of Business), MVP (実用最小限の製品), 技術開発のロードマップ (技術ロードマップ, 製品応用ロードマップ, 特許取得ロードマップ), パテントプール, 防衛特許, ハッカソン
4	変革活動のマネジメント	チェンジマネジメント	チェンジマネジメントのレベル (個人のチェンジマネジメント, プロジェクトのチェンジマネジメント, 組織のチェンジマネジメント), ADKAR モデル, コミュニケーション計画設計, 教育計画設計, 移行計画
		デザインの考え方をういた組織のマネジメント	組織デザイン, ビジョンデザイン, 多様性及び包摂性, CoE (Center of Excellence), 学習する組織

大分類 1：ビジネス変革 中分類 2：経営戦略・デジタル戦略

【内容】

・組織及びビジネスの課題に対する、デジタル技術を活用した戦略の立案、システムの企画・要件定義を行う又はそれらを支援するために必要な、経営戦略・デジタル戦略に関する共通知識を問う。

小分類		項目	用語例
1	経営戦略	経営戦略の策定	MVV, 規模の経済, 範囲の経済, ダイナミックケイパビリティ, コ・クリエーション戦略, サーキュラーエコノミー (循環経済)
		全体戦略の策定	ドメイン, 資源配分, 競争優位, 経験曲線, プロダクトポートフォリオマネジメント
		ビジネス戦略の策定	フィージビリティスタディ, ファイブフォース分析, SWOT 分析, VRIO 分析, バリューチェーン分析, 成長マトリクス, 競争の基本戦略 (コストリーダーシップ戦略, 差別化戦略, 集中戦略), 同質化戦略, バランススコアカード, OKR (Objectives and Key Results), ニーズ・ウォンツ分析, 競合分析
2	デジタル戦略	デジタル戦略の策定	DX の推進による企業価値向上, DX 戦略, DX ビジョン, 組織文化の変革, DX 推進の責任者 (最高デジタル責任者 (CD0), 最高技術責任者 (CT0), 最高情報責任者 (CIO), 最高データ責任者 (CDO) など), デジタルガバナンス・コード, デジタル経営改革のための評価指標 (DX 推進指標), デジタルスキル標準 (DSS)
		デジタル活用促進	普及啓発 (人材育成計画, ゲーミフィケーション, デジタルディバイド)
3	情報システム戦略	情報システム戦略の策定	〔情報システム戦略の策定〕 経営課題解決, 業務革新, 業務モデル, 投資効果 〔中長期の情報システム化基本計画〕 経営戦略との整合性, 情報システムのあるべき姿 (To-be モデル), 情報セキュリティ方針, システム構築・運用のための標準化方針及び品質方針
		システム化計画	システム化構想の立案, システム化計画の立案, 全体システム化計画, 個別システム化計画, システム適用範囲, プロジェクト推進体制, SoR (Systems of Record), SoE (Systems of Engagement), SoI (Systems of Insight), Fit to Standard, OOTB (Out Of The Box), レガシーシステム, モダナイゼーション 〔システム化計画の立案における検討項目〕 全体開発スケジュール, 要員教育計画, 開発投資対効果 (IT ポートフォリオ)

		要件定義	業務要件定義，機能要件定義，非機能要件定義，要件定義の手法（DFD，決定表，デシジョンツリー，UML，DOA（データ中心アプローチ） など）
		調達計画・実施	調達計画（内外作基準，入札募集（IFB）），外部資源活用検討（アウトソーシング，OEM，ODM，ファブレス，ファウンドリ），企画競争入札，一般競争入札，総合評価落札方式（加算方式），情報提供依頼書（RFI），提案依頼書（RFP），見積依頼書（RFQ），グリーン調達，契約締結
4	エンタープライズアーキテクチャ	エンタープライズアーキテクチャの理論	アーキテクチャモデル，ビジネスアーキテクチャ，データアーキテクチャ，アプリケーションアーキテクチャ，テクノロジーアーキテクチャ，ザックマンフレームワーク，TOGAF

大分類1：ビジネス変革 中分類3：ビジネスモデル・ビジネスプロセス

【内容】

・組織の経営戦略・ビジネス戦略に基づき，市場や顧客のニーズに合った提供価値の高いビジネスの仕組みを設計する又はそれを支援するために必要な，ビジネスモデル・ビジネスプロセスに関する共通知識を問う。

小分類		項目	用語例
1	ビジネス調査・ビジネス分析	ビジネス調査・ビジネス分析の手法	調査の設計，PEST 分析，STP 分析，コンジョイント分析，質問法，観察法，実験法，クロス集計，価格感度測定法，RFM 分析
2	ビジネスモデル	ビジネスモデルの設計・検証	ビジネスモデルキャンバス，プラットフォームビジネス，ネットワーク効果，リーンキャンバス，ビジネスとしての持続可能性
3	ビジネスプロセス	ビジネスプロセスの設計・改善	ビジネスプロセスマネジメント（BPM），ビジネスプロセスリエンジニアリング（BPR），ビジネスプロセスアウトソーシング（BPO），ECRS の原則，SECI モデル，制約条件理論（TOC）
4	プロダクトのマネジメント	プロダクトのマネジメント	プロダクトビジョン，プロダクトロードマップ，プロダクトスコープ，プロダクトライフサイクル，ライフサイクルエクステンション，プロダクトライン，プロダクトポートフォリオ，プロダクト要求仕様書（PRD），プロダクトマーケットフィット（PMF），マスカスタマイゼーション
5	マーケティング	マーケティング戦略	価格戦略（ダイナミックプライシング，需要の価格弾力性 など），流通戦略（ポランタリーチェーン，マーケティングミックス，マーケティングの 4P，マーケティングの 4C，マーチャンダイジング），LTV（Life Time Value），顧客ロイヤルティ，コンバージョン率，リテンション率
		マーケティング手法	ターゲットマーケティング，ワントゥワンマーケティング，リレーションシップマーケティング，ダイレクトマーケティング，インバウンドマーケティング，市場テスト（テストマーケティング），パーソナライゼーション
		Web マーケティング	動画広告，リテールメディア，SEO（検索エンジン最適化），LP0（ランディングページ最適化），CR0

			(コンバージョン率最適化), EF0 (入力フォーム最適化), A/B テスト, MMM (マーケティングミックスモデリング), Web マーケティング指標 (CTR (クリック率), CPC (クリック単価), フリークエンシー)
6	ブランディング	ブランディング戦略	ブランドアイデンティティ (製品としてのブランド, 組織としてのブランド, 人としてのブランド, シンボルとしてのブランド), ブランドパーパス, ブランドエクイティ, ブランドイメージの設計, ブランド訴求チャネル (広告, SNS, イベント (体験施設, 展示会, ポップアップ) など), アウターブランディング, インナーブランディング, マルチブランド戦略, ブランドセーフティ

大分類 1 : ビジネス変革 中分類 4 : サービスマネジメント

【内容】

・顧客にサービスを安定して提供し, 継続的に改善するために必要な, サービスマネジメントに関する共通的知识を問う。

小分類		項目	用語例
1	サービスマネジメント	サービスマネジメントの目的と考え方	サービス, サービスコンポーネント, サービスカタログ, サービスマネジメント, SLA, サービスレベル目標 (SLO), サービスレベル指標 (SLI), サービスポートフォリオ, サービス要求事項, JIS Q 20000 の規格群 (ISO/IEC 20000 シリーズ)
2	サービスマネジメントの活動	サービス事業の確立, 維持及び改善	事業関係管理, サービス満足度, サービスレベル管理, 供給者管理, 外部供給者, 内部供給者, サービスポートフォリオ管理, サービスカタログ管理, サービスの報告, 継続的改善, サービスの要求事項
		サービスの設計, 構築及び移行	変更管理, 変更要求 (RFC), サービスの設計及び移行, サービス受入れ基準, 移行, リリース及び展開管理, 資産管理, IT アセットマネジメント, 構成管理, 構成品目 (CI), サービスの予算業務及び会計業務, 課金, 需要管理, 容量・能力管理, 容量・能力 (キャパシティ), パフォーマンス
		サービス要求の実現	サービスデスク, SP0C (Single Point Of Contact), インシデント管理, インシデント, 重大なインシデント, エスカレーション, サービス要求管理, サービス要求, 問題管理, 問題, 既知の誤り, 傾向分析, 根本原因, 予防処置, ワークアラウンド, 監視・測定・分析及び評価, モニタリング
		サービスの保証	サービス可用性管理, MTBF, MTTR, サービス継続管理, 目標復旧時間 (RTO), 目標復旧時点 (RPO), 目標復旧レベル (RLO)

大分類1：ビジネス変革 中分類5：プロジェクトマネジメント

【内容】

- ・プロジェクトの一員として、スコープ、時間、コスト、リスクなどを踏まえ、関係者と協働しながらプロジェクトを推進するために必要な、プロジェクトマネジメントに関する共通的知识を問う。

小分類		項目	用語例
1	プロジェクトマネジメント	プロジェクトマネジメントの目的と考え方	プロジェクト、プロジェクトマネジメント、プログラム、ポートフォリオ、成果物、アウトプット、アウトカム、便益、プロジェクトの制約、プロジェクトガバナンス、ビジネスケース、プロジェクトライフサイクル
		プロジェクト組織・プロジェクトチームのマネジメント	プロジェクトスポンサー、プロジェクトマネージャ、プロジェクトオフィス、プロジェクトチーム、チームリーダー（作業パッケージリーダー）、プロジェクトチームメンバー、プロジェクトのステークホルダ、チームビルディング、リーダーシップ（ビジョナリーリーダーシップ、サーバントリーダーシップ）、周囲を巻き込むコミュニケーション、コンフリクトマネジメント、タックマンの成長モデル
3	プロセスの要素と手法	プロジェクトの統合的な管理	プロジェクト憲章（チャーター）、プロジェクト全体計画（プロジェクト計画及びプロジェクトマネジメント計画）、変更要求、承認された変更、変更登録簿、プロジェクト完了報告書、プロジェクト又はフェーズの終結報告書、得た教訓文書、ベースライン、変更管理委員会（CCB）、リスク登録簿、リスクの定性的分析技法、リスクの定量的分析技法、感度分析、脅威への戦略、好機への戦略、コンティンジェンシー対応戦略、リスクブレイクダウンストラクチャ（RBS）
		プロジェクトのステークホルダ及び資源	資源要求事項、資源計画、責任分担マトリックス（RAM）、組織ブレイクダウンストラクチャ（OBS）、ステークホルダ登録簿、ステークホルダ分析、双方向コミュニケーション、調達計画、調達作業範囲記述書（SOW）
		プロジェクトの成果及び制約条件	WBS、WBS辞書、ワークパッケージ、スコープクリープ、スケジュール、予算、実コスト、予想コスト、類推見積り、パラメトリック見積り、三点見積り、ボトムアップ見積り、PERT、クリティカルパス法、プレシデンスダイアグラム、アローダイアグラム、ガントチャート、クラッシング、ファストトラッキング、資源最適化（資源平準化、資源円滑化）、What-Ifシナリオ分析、COCOMO II、品質計画、品質コスト（COQ）、アーンドバリューマネジメント（EVM）、アーンドスケジュール理論

大分類 1：ビジネス変革 中分類 6：デザインのアプローチ

【内容】

・顧客・利用者の視点から課題や価値を捉え、仮説を立て、試行し、評価しながら、より良いプロダクト、サービス又はシステムの実現につなげるために必要な、デザインのアプローチに関する共通的知识を問う。

小分類		項目	用語例
1	デザインのアプローチ	デザインのアプローチに関する考え方・方法論	UX デザインの五段階モデル, UX ハニカム構造, UX タイムスパン, CX デザイン, エモーショナルデザイン, 人間中心設計, JIS Z 8530 (ISO 9241-210), サービスデザイン, サービスデザインの 6 原則 (人間中心, 共働的であること, 反復的であること, 連続的であること, リアルであること, ホリスティック (全体的) な視点), デザイン思考, 参加型デザイン
2	デザインプロセスマネジメント	デザインプロセスマネジメントの概要	デザインシステム, デザインスプリント, プロセスマッピング, フェーズゲート管理, QFD (品質機能展開), デザインプロセス指標設計, ROI 評価, 組織における人間中心設計のプロセス (ISO 9241-220), UX 成熟度
		顧客理解・ユーザー理解	利用状況 (ユーザー, 目標, タスク, 資源, 環境), 現状指向型アプローチ, 目的指向型アプローチ, 要求工学, 親和図, エスノグラフィー調査, コンテクスチュアルインクワイアリー (文脈的調査), デプスインタビュー, 共感マップ, カルチュラルプローブ, ジョブ理論 (JTBD)
		仮説・構想の手法	問題定義 (POV, HMW), クリエイティブシンキング, バリュープロポジションキャンバス, カスタマージャーニーマップ, サービスブループリント, 構造化シナリオ法 (バリューシナリオ, アクティビティシナリオ, インタラクションシナリオ), ユーザーストーリーマッピング
		プロトタイプの手法	プロトタイプの 3 つの側面 (役割, ルックアンドフィール, 実装), プロトタイプの忠実度 (ローファイ, ハイファイ), ペーパープロトタイプ, サービスプロトタイプ, ファンクショナルプロトタイプ, デザインプロトタイプ, デスクトップウォークスルー
		評価の手法	ユーザビリティの評価尺度 (効果, 効率, 満足), 形成的評価, 総括的評価, テクニカルライティング, インスペクション法, 思考発話法, SUS (System Usability Scale), UX 指標 (HEART フレームワーク), 成果測定

大分類 2 : データ・AI の利活用 中分類 8 : データマネジメント

【内容】

・組織及びビジネスにおいてデータを価値創出の基盤として適切に管理し、ガバナンス及びライフサイクルを踏まえて利活用するために必要な、データマネジメントに関する共通的知识を問う。

小分類		項目	用語例
1	データマネジメント	データマネジメントの目的と考え方	データドリブン経営, データマネジメント, データガバナンス, データライフサイクル, DIKW モデル, データスペース, SSOT (信頼できる唯一の情報源)
		データマネジメントの機能	データモデリング, データ統合, データ品質管理, メタデータ管理, データセキュリティ
2	データライフサイクル	データライフサイクルの機能	生成, 保管, 処理, 活用, 廃棄
3	データガバナンス	データガバナンスの活動内容	データガバナンスの基本行動 (評価, 方針又は指示, 監視), データ品質ルール, データガバナンス実行 (チェック, 支援, 指導)
4	データ品質管理	データ品質指標	データ品質, データ品質特性 (正確性, 完全性, 一貫性, 信憑性, 機密性 など), データ品質測定量, データ品質モデル
		データ品質の改善	データクレンジングの目的と効果 (欠損値の補完・除外, 外れ値の修正・削除, 異常値の修正・削除, 重複の排除, 表記ゆれの修正 など), データ品質の測定尺度の意味
		品質管理の継続的プロセス	データ品質マネジメント, データ品質計画, データ品質制御, データ品質保証, データ品質改善, データ品質低下の予防措置 (データ入力チェック, データ品質ルールの定義及び適用)
5	メタデータ管理	メタデータ	ビジネス及び業務に関するメタデータ (ビジネスメタデータ), IT に関するメタデータ (テクニカルメタデータ), システム運用に関するメタデータ (オペレーショナルメタデータ), メタデータレジストリ, メタデータリポジトリ, データ辞書, ビジネスグロッサリー (ビジネス用語集), データカタログ
		メタデータ管理プロセス	DMO などによる運用ルール整備, 運用ルールに基づいたメタデータの追加・更新, メタデータの収集及び管理, セキュリティメタデータの管理
		メタデータ品質・ガバナンス	メタデータリポジトリの利用頻度の測定, メタデータの品質評価, メタデータリポジトリの完全性, メタデータリポジトリの可用性

大分類 2 : データ・AI の利活用 中分類 9 : データ分析・データ利活用			
【内容】			
・組織やビジネスの課題解決や価値創出のためのデータ分析を実施するために必要な、データ分析・データ利活用に関する共通的知識を問う。			
小分類		項目	用語例
1	データ基盤	データ基盤の特徴	データレイク, データウェアハウス (DWH), データマート, レイクハウス, スタースキーマ, スノーflakeスキーマ, スキーマオンリード, スキーマオンライト, ETL/ELT, データ仮想化, データコネクタ, データファブリック
		データ分析・データ管理ツールの活用	オントロジー, セマンティックレイヤー, 多次元分析 (ドリルダウン, ドリルアップ), データブレンディング, データブレパレーション
2	データ分析・データ利活用	データの種類と特徴	構造化データ, 半構造化データ, 非構造化データ, 時系列データ, ビッグデータ, クロスセクションデータ, オルタナティブデータ, データの収集方法 (クローリング, バッチ, ポーリング など)
		データの加工・分析	名寄せ, 外れ値・異常値・欠損値の処理, ストップワード除去, 標準化, スクレイピング, 周期性, アソシエーション分析, アドホック分析, リフト値, 機械学習を用いたデータ分析, パターン発見
		データ分析における統計的手法	確率, 条件付き確率, 正規分布, 代表値, 標準偏差, 歪度, 尖度, 回帰分析, 主成分分析, 因子分析, 擬似相関, 尺度, 最尤推定, 仮説検定 (第 1 種の誤り, 第 2 種の誤り), 標本抽出, 統計的バイアス, 認知バイアス
		図表やグラフによるデータの可視化	目的に応じたグラフの選択 (比較, 構成, 分布, 推移, 相関), 箱ひげ図, ヒートマップ, クロス集計表, 分割表, 探索のための可視化/説明のための可視化, 複合グラフ, 2 軸グラフ
3	業務分析	業務分析・業務計画	線形計画法, ゲーム理論, IE 分析手法 (ワークサンプリング法 など), QC 七つ道具, 新 QC 七つ道具, 需要予測 (最小二乗法, 移動平均法, 指数平滑法), G-P 分析 (Good-Poor Analysis), デルファイ法, モンテカルロ法
大分類 2 : データ・AI の利活用 中分類 10 : AI 利活用			
【内容】			
・組織やビジネスの課題解決や意思決定に AI を安全かつ効果的に活用するために必要な、AI 利活用に関する共通的知識を問う。			
小分類		項目	用語例
1	AI 利活用の原則及び指針	人間中心の AI 社会原則	人間中心の AI 社会原則, AI-Ready な社会, AI 社会原則 (人間中心の原則, 公平性・説明責任・透明性の原則, イノベーションの原則 など)
		AI 政策・標準化の動向	AI 事業者ガイドライン, AI マネジメントシステム (ISO/IEC 42001), AI セーフティ・インスティ

			テュート (AISI)
2	識別 AI 利活用	識別 AI の活用領域及び活用目的	AI による認識, AI による自動化, AI による異常検知, AI アシスタント, 教師あり学習による予測, 教師なし学習によるグルーピング, 強化学習による支援, AI パーソナライゼーション
3	生成 AI 利活用	生成 AI の活用領域及び活用目的	マルチモーダル AI, ランダム性の制御 (Temperature, Top-p, Top-k), RAG による知識連携, プロンプトエンジニアリング, システムプロンプト, ローカル LLM 活用の検討
4	AI エージェント利活用	AI エージェントの活用領域及び活用目的	AI エージェント, AI エージェントの特性 (適応性, 積極性, 目的の複雑性, 環境の複雑性, 自律性), 自律性と人間の関与, ガードレール (安全性への配慮, 倫理的配慮, 法令順守 など)

大分類 3 : 組織活動 中分類 11 : 経営・組織論

【内容】

・組織内外のステークホルダとの関係性, 人や金の動き・流れを理解し, 広い視野で業務を遂行するために必要な, 経営・組織論に関する共通的知识を問う。

小分類		項目	用語例
1	組織活動	組織活動と経営資源	人的資本経営, パーパス経営, サステナビリティ経営, 企業の社会的責任 (CSR), 社会的責任投資 (SRI), ESG 投資
		組織形態と組織・企業の特徴	IR (Investor Relations), 統合報告書, アニュアルレポート, サステナビリティ報告書, コーポレートアイデンティティ, コーポレートブランド
2	経営管理	経営管理・経営組織	財務・資産・人事・情報管理, 階層型組織 (ピラミッド型組織), 職能別組織, マトリックス組織, カンパニー制組織, 分散型自律組織 (DAO), プロジェクト組織
		ヒューマンリソースマネジメント	エンプロイヤビリティ, リスキング, アダプティブラーニング, CDP (キャリアデベロップメントプログラム), GROW モデル, SMART の法則, HPI (Human Performance Improvement), 目標管理制度 (MBO : Management by Objectives and self-control), 従業員支援プログラム (EAP)
		行動科学	ロジカルシンキング, ロジックツリー, グループダイナミクス, マズローの欲求段階説, 動機づけ・衛生理論, XY 理論, 期待理論, 内発的動機づけ, PM 理論, SL (Situational Leadership) 理論
		事業継続計画	事業継続計画 (BCP), 事業継続マネジメント (BCM), JIS Q 22301 (ISO 22301), 事業影響度分析 (BIA), レジリエンス, デジタルレジリエンス, オペレーショナルレジリエンス
		ファシリティマネジメント	ファシリティマネジメント (FM), ファシリティのライフサイクル, 施設資産戦略, 施設要求管理戦略及び計画, 施設資産特性, 環境対策, ZEB (net Zero Energy Building), LEED (Leadership in Energy & Environmental Design) 認証
3	会計・財務	売上と利益の関係	利益, 営業利益, 固定費, 変動費, 限界利益図表, 原価分析, 変動損益計算書, 損益分岐点, 安全

			余裕率
		決算の仕組み	試算表，精算表，連結貸借対照表，連結損益計算書，連結キャッシュフロー計算書，連結株主資本等変動計算書，支配力基準，有価証券報告書，決算短信，IFRS
		財務諸表	貸借対照表，損益計算書，キャッシュフロー計算書，有形固定資産，無形固定資産，純資産，販売費及び一般管理費，営業外損益，特別損益
		代表的な財務指標	内部分析，外部分析，資本利益率，売上高利益率，資本回転率，総資産利益率（ROA），自己資本利益率（ROE），流動比率，自己資本比率，資本生産性，労働生産性，経済的付加価値（EVA）
		経済性計算の手法	正味現在価値（NPV）法，内部利益率（IRR）法

大分類 3：組織活動 中分類 12：ガバナンス・監査

【内容】

・組織及びビジネスの活動やデジタル環境におけるリスクを踏まえ，ガバナンスの確保，内部統制の整備・運用，監査への対応又は支援を行うために必要な，ガバナンス・監査に関する共通的知识を問う。

小分類		項目	用語例
1	コーポレートガバナンス	コーポレートガバナンス	コーポレートガバナンス，コンプライアンス，コーポレートガバナンス・コード
2	内部統制・デジタルガバナンス	内部統制・デジタルガバナンス	内部統制の限界（合理的保証・デジタル／AI リスク考慮），内部統制報告制度（J-SOX），財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準，財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準，内部統制の基本的要素（統制環境，リスクの評価と対応，統制活動，情報と伝達，モニタリング，IT への対応），IT への対応（IT 環境への対応，IT の利用，IT に係る全般統制，IT に係る業務処理統制），法令遵守状況の評価・改善，コンプライアンス・不正リスク管理，AI ガバナンス，サイバーセキュリティ経営ガイドライン，外部委託管理（第三者リスク）
3	監査	情報システムに係る監査	監査の形態（会計監査，システム監査，情報セキュリティ監査，個人情報保護監査，コンプライアンス監査，マネジメントシステム監査，法定監査，内部監査，合同監査（シェアード監査・共同監査）），統制自己評価（CSA）
		システム監査の目的	システム監査人の権限と責任等，監査人の倫理，誠実性，専門的能力の保持と向上，正当な注意と秘密の保持，システム監査に対するニーズの把握と品質の確保，監査の独立性と客観性の保持，情報システムの利活用に係る検証・評価，システム監査基準，システム管理基準
		システム監査の計画・体制整備	システム監査計画の策定（リスクアプローチ，監査の目的・テーマ）

		システム監査の実施	監査プロセス（予備調査，本調査，結論），予備調査の実施，監査手続書の作成，監査手続の実施（チェックリスト法，ドキュメントレビュー法，インタビュー法（質問書・調査票）），コンピュータ支援監査技法（CAAT），監査証拠の入手と評価，監査調書の作成と保管，監査の結論の形成，監査報告書，改善提案のフォローアップ
--	--	-----------	--

大分類 4：デジタル技術 中分類 13：デジタルサービス・デジタルツール

【内容】

・様々なビジネス領域の業務遂行において高い生産性と品質を実現するために必要な，デジタルサービス・デジタルツールの活用に関する共通的知識を問う。

小分類		項目	用語例
1	デジタルサービスの活用	ビジネスシステム	CDN (Content Delivery Network)，企業資源計画 (ERP)，顧客関係管理 (CRM)，人的資本管理 (HCM)，企業資産管理 (EAM)，倉庫管理システム (WMS)，輸配送管理システム (TMS)，経営ダッシュボード，エンタープライズサーチ
		エンジニアリングシステム	JIT (ジャストインタイム)，産業用ロボット，生産管理 (工程管理，日程管理，在庫管理，原価管理 など)，FA (ファクトリーオートメーション)，資材所要量計画 (MRP)，MES (Manufacturing Execution System)
		EC システム	EC (電子商取引)，電子決済システム，組み込み型金融 (Embedded Finance)，EFT (電子資金移動)，RFID 応用システム，フィンテック (FinTech)，暗号資産，中央銀行発行デジタル通貨 (CBDC)，電子記録債権，EDI (電子データ交換)，アカウントアグリゲーション，AML・CFT (マネーロンダリング・テロ資金供与対策) ソリューション
2	デジタルツールの活用	組織のデジタル環境	デジタルワークプレイス，ワークフローシステム，コンテンツ管理システム (CMS)

大分類 4：デジタル技術 中分類 14：システムの種類・構成

【内容】

・システム (IoT・組み込みシステムを含む) に求められる機能，性能，信頼性，安全性などを満たすアーキテクチャの設計・評価を行う又はそれらを支援するために必要な，コンピュータ及びシステムの構成要素に関する共通的知識を問う。

小分類		項目	用語例
1	サイバーフィジカルシステム	サイバーフィジカルシステムの特徴・動向	サイバーフィジカルシステム (CPS)，デジタルツイン，エッジコンピューティング，エッジ AI，フィジカル AI，IoT，IT と OT の融合 (IT/OT コンバージェンス)
2	IoT・組み込みシステム	民生機器の特徴と動向	アプライアンス，アクティビティトラッカー，HEMS，スマートホーム関連規格 (Matter)

	ム		
		産業機器の特徴と動向	SoS (System of Systems), 都市 OS, MaaS (Mobility as a Service), ワイヤレス給電, プログラムブルロジックコントローラー (PLC), 自動倉庫, マシンビジョン, BEMS (Building Energy Management System), CASE, グリーンスローモビリティ, 超小型モビリティ, SDV (Software Defined Vehicle), 量子コンピュータ
		IoT の構成部品	レーザーレーダー (LiDAR), ミリ波レーダー, ウェアラブル生体センサー, ToF センサー, アクチュエーター, ブラシレス DC モーター, DC サーボモーター, ステッピングモーター, ソレノイド, 計測システム, GNSS, 無線 LAN アクセスポイント測位, BLE ビーコン
3	コンピュータ構成要素	プロセッサ	CPU, GPU, AI チップ, TPU (Tensor Processing Unit), DPU (Data Processing Unit), NPU (Neural Processing Unit), VPU (Visual Processing Unit)
		メモリ	PROM (Programmable Read Only Memory), FeRAM (Ferroelectric Random Access Memory), ダイレクト方式, ビッグエンディアン, リトルエンディアン, メモリインターリーブ
		バス	アドレスバス, データバス, コントロールバス (制御バス), バスアービタ, バスマスター, 集中制御方式, バスの標準規格 (PCI Express, NVMe (NonVolatile Memory Express) など)
		入出力インタフェース	転送方式, 伝送レート, USB, HDMI, BLE (Bluetooth Low Energy), FC (ファイバチャネル), UART
		入出力装置	ポインティングデバイス, ヘッドマウントディスプレイ, アイトラッキングデバイス, ハプティックデバイス
		ファイルシステム	シンボリックリンク, エイリアス, ファイルハンドル, ファイル記述子, キャラクターデバイス, ブロックデバイス 〔ファイル編成とアクセス手法〕 論理レコード, 物理レコード, ブロック, ブロッキング, デブロッキング
4	システム構成要素	システム構成	集中処理システム, 分散アーキテクチャ, デュアルシステム, デュプレックスシステム, タンデム結合, 密結合, 疎結合, ハイパフォーマンスコМП्यूティング (HPC), 大規模並列, アレイプロセッサ, RPC
		信頼性設計	並列運転, 競合制御, 単一障害点 (SPOF), フォールトトレラントシステム, IP-SAN, FC-SAN, ブロックストレージ, オブジェクトストレージ
		システム評価指標	ベンチマーク, システムモニタ, TPC, キャパシティプランニング 〔システムの信頼性特性と評価〕

			RASIS, 平均故障間動作時間 (MTBF), 平均修復時間 (MTTR)
大分類 4 : デジタル技術 中分類 15 : クラウド			
【内容】			
・ 組織及びビジネスの要件に応じて, 柔軟性, 拡張性, 可用性, 責任分界などを踏まえたクラウドサービス及び仮想基盤技術の活用を行う又は支援するために必要な, クラウドに関する共通的知识を問う。			
	小分類	項目	用語例
1	クラウドサービス	クラウドサービスの特徴	クラウドサービス (XaaS), パブリッククラウド, プライベートクラウド, コミュニティクラウド, ハイブリッドクラウド, マルチクラウド, アンマネージドモデル, マネージドモデル, フルマネージドモデル, ソブリンククラウド, 共有責任モデル, クラウドの特性 (オンデマンドセルフサービス, 幅広いネットワークアクセス, リソースの共用, スピーディな拡張性, サービスが計測可能であること), オンプレミスとクラウドとの違い, データ保持の方法, 導入コスト・運用コストの削減, 短期導入, スケーラビリティ, 障害対策, 災害対策, セルフサービスポータル, マルチテナンシー, リージョン
2	基盤技術	クラウド・仮想化基盤技術	仮想化, サーバ仮想化, ネットワーク仮想化, ストレージ仮想化, ハイパーコンバージドインフラストラクチャ, コンテナオーケストレーション, ベアメタルクラウド, IaC (Infrastructure as Code)
大分類 4 : デジタル技術 中分類 16 : ネットワーク			
【内容】			
・ 信頼性, 効率性, 安全性の高いネットワークシステムの設計・構築・運用を行う又はそれらを支援するために必要な, ネットワークに関する共通的知识を問う。			
	小分類	項目	用語例
1	ネットワーク方式	インターネット技術	IPv4, IPv6, オーバーレイネットワーク, TLD
2	データ通信と制御	ネットワークアーキテクチャ	ネットワークトポロジ, OSI 基本参照モデル
		伝送方式と回線の種類	リンクアグリゲーション, コンテンション方式, パリティチェック, フレーム同期
		ネットワーク接続装置	カスケード接続, ルータ, レイヤー2 スイッチ (L2 スイッチ), レイヤー3 スイッチ (L3 スイッチ), プロキシサーバ, リバースプロキシサーバ, CSMA/CA
3	通信プロトコル	プロトコルの種類と特徴	〔データリンク層のプロトコルの種類と特徴〕 ARP, IPoE, IEEE 802.1Q, MAC アドレス 〔ネットワーク層のプロトコルの種類と特徴〕

			IP, ICMP, ルーティング, ブロードキャスト, エニーキャスト 〔トランスポート層のプロトコルの種類と特徴〕 TCP, UDP, QUIC, ポート番号 〔アプリケーション層のプロトコルの種類と特徴〕 HTTP, HTTP over TLS (HTTPS), DHCP
		インタフェースの種類と特徴	イーサネット, Wi-Fi, 100BASE-TX, 1000BASE-T, 10GBASE-T, メッシュ Wi-Fi
4	ネットワーク応用	インターネットサービスの種類と特徴	〔電子メール〕 IMAP4, MIME, base64 〔Web ブラウジング〕 cookie, CORS (オリジン間リソース共有), REST, GraphQL, QUIC 〔ファイル転送／ファイル共有〕 FTP, SFTP 〔通信サービス〕 IP 電話, FTTH
		モバイル通信・IoT 通信の特徴	〔モバイル通信サービス〕 移動体通信事業者 (MNO), LTE, 5G (第 5 世代移動通信システム), ネットワークスライシング 〔モバイルシステム構成要素〕 SIM カード, eSIM (embedded SIM), 基地局, SA (Stand Alone) 方式, NSA (Non-Stand Alone) 方式, フェムトセル, 無線アクセスネットワーク (RAN) 〔モバイル通信技術〕 ハンドオーバー, モバイル通信の省電力化技術 (間欠受信, ビームフォーミング) 〔IoT システムのネットワーク〕 LPWA, IEEE 802.11ah, 軽量プロトコル (CoAP, MQTT)
5	ネットワーク管理	ネットワーク運用管理	ネットワークの構成管理, ネットワークの障害管理, ネットワークの性能管理 〔ネットワークの仮想化〕 トンネリング, SDN, SD-WAN, NFV, SNMP

大分類 4：デジタル技術 中分類 17：データベース

【内容】

・組織のデータ資源を適切に蓄積し、共有し、利活用するためのデータベースの設計・管理を行う又はそれらを支援するために必要な、データベースに関する共通の知識を問う。

小分類		項目	用語例
1	データベース方式	データベースの概要	データアーキテクチャ（集中型アーキテクチャ、分散型アーキテクチャ、ハイブリッド型アーキテクチャ）、データベースの3層スキーマアーキテクチャ、データモデル、グラフ型のデータモデル、関係モデル、ドキュメント指向データベース、列指向データベース、グラフデータベース、キーバリュー型データベース、ベクトルデータベース、インメモリデータベース
2	データベース設計	データベースの設計	[データベースの概念設計] 概念データモデル、E-R図、UML、カーディナリティ [データベースの論理設計] 論理データモデル、一貫性制約、主キー、外部キー、サロゲートキー [データベースの物理設計] ファイル編成、パーティショニング、コンプレッション、デコンプレッション
		正規化とパフォーマンス設計	正規化、非正規化、第1正規形、第2正規形、第3正規形、データベースの性能評価、チューニング、再編成、データベースの運用・保守
3	データ操作	データベースの操作	集合演算、関係演算、関係代数
		データベース言語	DDL（データ定義言語）、DML（データ操作言語）
4	トランザクション処理	トランザクション処理	同時実行制御（排他制御）、ロック方式、セマフォ方式、コミットメント制御、多版同時実行制御（MVCC）、デッドロック、2相コミットメント、スキュー（skew）、ACID特性、ダンプファイル、リストア、フォワードリカバリ（ロールフォワード）、バックワードリカバリ（ロールバック）、ウォームスタート、コールドスタート
5	データベース応用	分散データベース	透過性、クライアントキャッシュ、レプリケーション、表の分散（水平、垂直）、CAP定理、BASE特性、結果整合性、シャーディング
		データ資源管理	分散ファイルシステム、データベースサービス

大分類 4 : デジタル技術 中分類 18 : AI 技術

【内容】

・組織やビジネスの課題解決に向けて、AI エージェント、生成 AI などの AI 技術の特性を理解した上で、AI 技術の適用可能性を判断し、期待効果、制約、リスクを踏まえて AI の活用方法を提案・導入する又はそれらを支援するために必要な、AI 技術に関する共通的知识を問う。

小分類		項目	用語例
1	機械学習	機械学習の種類・特徴	教師あり学習、回帰、分類、線形回帰、ロジスティック回帰、決定木、アンサンブル学習、ランダムフォレスト、サポートベクトルマシン (SVM)、教師なし学習、クラスタリング、次元削減、主成分分析、k-means 法、強化学習
		モデル精度の改善・評価	ハイパーパラメータ、ランダムサーチ、グリッドサーチ、学習率、汎化性能、バイアス・バリエーションのトレードオフ、データドリフト、モデルドリフト、交差検証、ホールドアウト検証、ROC 曲線、AUC (Area Under the Curve)
2	ディープラーニング	ディープラーニングの特徴	ディープラーニング (深層学習)、ニューラルネットワーク、勾配消失問題、活性化関数 (ReLU 関数、Leaky ReLU 関数、tanh 関数、シグモイド関数、ソフトマックス関数 など)、事前学習、ファインチューニング、転移学習、勾配降下法 〔モデルの最適化〕 正則化、ドロップアウト
		ディープラーニングの応用	畳み込みニューラルネットワーク (CNN)、リカレントニューラルネットワーク (RNN)
3	生成 AI 技術	生成 AI 技術の特徴	拡散モデル (Diffusion Model)、大規模言語モデル (LLM)、Transformer、自己教師あり学習、コンテキスト内学習 (In-Context Learning)、アラインメント、人間のフィードバックによる強化学習 (RLHF)、トークン、コンテキストウィンドウ、エンベディング (埋込み表現)、検索拡張生成 (RAG) 〔モデルの軽量化〕 プルーニング (枝刈り)、蒸留 (Distillation)、量子化 (Quantization)
4	AI エージェント技術	AI エージェント技術の特徴	AI エージェントの思考フレーム (CoT (Chain of Thought)、ToT (Tree of Thought) など)、長期記憶、MCP (Model Context Protocol)、コンテキストエンジニアリング、エージェントワークフロー、マルチエージェント、A2A (Agent2Agent Protocol)、スキル設計パターン

大分類 4 : デジタル技術 中分類 19 : 情報デザイン・情報メディア

【内容】

- ・多様な利用者が必要な情報を正しく理解し、迷わず操作できるシステムを開発する又はそれを支援するために必要な、情報デザインに関する共通的知识を問う。
- ・システム及びソフトウェアの開発において、対象システムが扱うデジタルメディアの特性を理解し、メディアデータの通信量や保存容量などを意識した設計・実装を行う又はそれを支援するために必要な、情報メディアに関する共通的知识を問う。

小分類		項目	用語例
1	情報デザイン	情報デザインの概要	LATCH の法則, ダークパターン (ディセプティブパターン)
		ユーザーインタフェース	ノンバーバルインタフェース, マルチモーダルインタフェース, 空間型インタフェース
		ユニバーサルデザイン	ユニバーサルデザインの 7 原則, JIS X 8341, エルゴノミクス (人間工学), WAI (Web Accessibility Initiative), WCAG (Web Content Accessibility Guidelines)
2	デジタルメディア技術	デジタルメディア・デジタルコンテンツ	インタラクティブコンテンツ, コンテナフォーマット, アダプティブストリーミング
		メディアデータの種類と特徴	音声データ (パルス符号変調 (PCM), WAV, FLAC, MP3, AAC, Opus, 標本化周波数, 量子化ビット数), 画像データ (JPEG, GIF, TIFF, RAW, HEIF, Exif), 動画データ (Motion JPEG, インターレース方式, プログレッシブ方式, リニア編集, ノンリニア編集)
		データの圧縮・符号化	圧縮率, 可逆圧縮, 非可逆圧縮, ランレングス, ハフマン符号, 離散コサイン変換 (DCT), エンコード, デコード, ビットレート, サンプリング
		視覚的表現	色の 3 原色 (CMY), CMYK, キープレート, YUV フォーマット (YUV411, YUV422 など)
3	デジタルメディア応用	デジタルメディア応用	レンダリング, テクスチャマッピング, シェーディング (フォンシェーディング, グローシェーディング)

大分類 5 : システムの開発・運用 中分類 20 : システムライフサイクルプロセス

【内容】

- ・システム及びソフトウェアの要件定義・設計・実装・テスト・運用の一連のプロセスを計画的かつ着実に進めるために必要な、システムライフサイクルプロセスに関する共通的知识を問う。

小分類		項目	用語例
1	開発プロセスの概要	ライフサイクルプロセス	システムライフサイクルプロセス, ソフトウェアライフサイクルプロセス (SLCP), テクニカルマネジメントプロセス, テクニカルプロセス, プロセス修整 (Tailoring)
2	システム要件定義・	システム要件の定義	システムの機能要件, システム機能仕様, システムの性能要件, 利用者の業務処理手順, 操作要件

	ソフトウェア要件定義		(システム操作イメージ), データベース要件, テスト要件, セキュリティ要件, 移行要件, 運用要件, CRUD マトリクス, システム要件の評価及びレビュー
		ソフトウェアの境界及び要件の定義	ソフトウェア要件の定義, ソフトウェアの機能仕様, サブシステム分割, サービスの定義, 業務モデルの作成, ソフトウェア要件の評価及びレビュー
3	設計	システム設計	ハードウェア・ソフトウェア・サービス・手作業の機能分割, ハードウェア構成の決定, ソフトウェア構成の決定, システム処理方式の決定, データベース方式の決定, システム統合テストの設計
		ソフトウェア設計	〔ソフトウェア設計〕 ソフトウェアの構造の設計, ソフトウェア要素の設計, ソフトウェアユニット, インタフェース設計, ソフトウェアユニットのテストの設計, ソフトウェア統合テストの設計
		ソフトウェア品質	品質特性モデル, 利用時品質モデル
		モジュール設計	モジュール分割技法, モジュール分割基準 (モジュール強度, モジュール結合度, モジュール再分割, 機能的強度, 情動的強度, 制御結合)
		レビュー	コードレビュー, ピアレビュー, デザインレビュー, インспекション, ウォークスルー
4	実装・構築	ソフトウェアユニットの作成	コーディング標準, 構造化プログラミング, デバッグ
		ソフトウェアユニットのテスト	テスト設計と管理手法, テスト自動化, テストの網羅度, ホワイトボックステスト, ブラックボックステスト, 判定条件網羅, 複数条件網羅
5	統合・テスト	ソフトウェア統合・ソフトウェア検証	ソフトウェア統合計画, ソフトウェア統合テスト, トップダウンテスト, ボトムアップテスト, ドライバ, スタブ, 統合テスト報告書, ソフトウェア検証テスト, ソフトウェア検証テストの評価, ソフトウェア検証テスト報告書
		システム統合・システム検証	システム統合計画, システム統合テスト, システム統合の評価, システム検証テスト報告書
6	導入・受入れ支援	導入	導入要件, 導入作業, リプレース, カナリアリリース, ブルーグリーンデプロイメント, 導入手順, 利用者支援
		受入れ支援	受入れ手順, 受入れ基準, 受入れテスト, 受入れ体制, 教育訓練システム, カークパトリックの教育効果の4段階モデル, 利用者用文書類
		妥当性確認テスト	妥当性確認テストの目的, 成功基準 (期待される結果), 適用する妥当性確認テストの技法, 不具合の根本原因, ソフトウェアの試行利用 (ベータテスト, 運用操作テスト), シミュレーション
7	運用	システム運用	日常の運用計画, 障害発生時の運用計画, 運用負荷低減のための改善計画, システム運用管理, 運用の資源管理, バックアップ, AIOps

8	保守・廃棄	保守	保守体制，保守テスト，是正保守，改良保守，予防保守，適応保守，完全化保守，保守プロセス，システム信頼性のための解析技法（FTA，FMEA，STAMP/STPA など）
		廃棄	運用停止（不活性化），除去，廃棄処分の選択（再利用，再生利用，再調整，破壊），データ及び知的財産の保持又は破棄，記憶媒体からのソフトウェアの完全消去，運用操作要員の撤退と操作知識の記録，記録の保存

大分類 5：システムの開発・運用 中分類 21：開発・運用の方法論

【内容】

・システム及びソフトウェアの要件を理解して，適切に開発・運用の手法を選択し，利用時の品質とプロダクトの品質の両面を考慮した開発・運用を行う又はそれらを支援するために必要な，開発・運用の方法論に関する共通的知识を問う。

小分類		項目	用語例
1	開発の手法・方法論	開発手法の種類と特徴	ウォーターフォールモデル，プロトタイプモデル，アジャイル，DevOps，モデル駆動開発，ユースケース駆動開発，マッシュアップ
		アジャイル開発	アジャイルソフトウェア開発宣言，アジャイルソフトウェアの12の原則，自己組織化，エクストリームプログラミング（XP），スクラム，リーンソフトウェア開発，ユーザー機能駆動開発（FDD），インセプションデッキ，INVEST，プランニングポーカー，タイムボックス，バーンダウンチャート，ベロシティ，KPT 〔エクストリームプログラミング（XP）の特徴〕 共同のプラクティス，開発のプラクティス，管理者のプラクティス，顧客のプラクティス，イテレーション
		DevOps	パイプライン自動化，シフトレフト，SRE（Site Reliability Engineering：サイト信頼性エンジニアリング），エラーバジェット，継続的インテグレーション（CI），継続的デリバリー（CD），継続的デプロイ，カオスエンジニアリング，DORA メトリクス（デプロイの頻度，変更のリードタイム，変更障害率，平均修復時間（MTTR）），オブザーバビリティ（可観測性）
2	開発関連の設計手法	業務分析・要件定義に用いられる手法	ユースケース，プロトタイプ，プロトタイプ版評価，DFD，E-R 図，UML，決定表，SysML，状態遷移図，状態遷移表
		アーキテクチャパターン	MVC，MVVM（Model，View，ViewModel），MVP（Model，View，Presenter），マイクロサービスアーキテクチャ，マイクロカーネルアーキテクチャ
		デザインパターン	デザインパターン，GoF，生成に関するパターン，構造に関するパターン，振る舞いに関するパタ

			ーン
		オブジェクト指向設計	ソフトウェア設計原則 (SOLID)
		ドメイン駆動設計	ドメイン駆動設計 (DDD), ユビキタス言語, 境界づけられたコンテキスト (Bounded Context), エンティティ (同一性をもつモデル要素), 値オブジェクト
		ユーザーインタフェース設計	[情報アーキテクチャ] 情報アーキテクチャ (インフォメーションアーキテクチャ), 情報の組織化 (五十音, カテゴリなど), 構造化 (階層型, タグ付けなど), 階層型, 直線型 [UI 設計] インタラクショントデザイン, インタラクティブシステム, インタラクションの原則, ユーザー操作の分析, 身体的適合性 [画面設計] 画面構成, 情報の関係性, フォーマットエラー, 論理エラー, シーケンスエラー
		形式手法	形式仕様記述 (VDM, Z 記法 など), モデル検査
3	開発プラットフォーム・開発ツール	開発環境	ソースコード管理 (SCM), ステージング環境, 設計データ管理
		開発フレームワーク	開発フレームワーク活用のメリット (開発効率の向上, コード品質の向上, MVC モデル など), フロントエンドフレームワーク, バックエンドフレームワーク, データ・機械学習用フレームワーク
		OSS	オープンソースライブラリ, オープンソースライセンス, コピーレフト (Copyleft), デュアルライセンス, MIT ライセンス, GPL (General Public License), BSD ライセンス, MPL (Mozilla Public License), Apache ライセンス
4	Web アプリケーション開発	Web デザイン	モバイルファースト, レスポンシブ Web デザイン, UX ライティング, ワイヤフレーム, ビジュアルリグレーション
		Web プログラミング	SPA (Single Page Application), フロントエンドフレームワーク, WebAssembly, XML, CSS (カスケディングスタイルシート)
5	AI 駆動開発・AI プロジェクト	AI 駆動開発	パイプコーディング, エージェントティックコーディング, 仕様駆動開発 (SDD), Markdown ファイル, Mermaid 記法, テスト自動化, パッケージハルシネーション
		AI 開発プロジェクト	AI プロジェクトのマネジメント (企画, 調査 (データ収集・PoC), 実装, 運用・改善 など), MLOps,

			LLMOps, AIBOM (AI Bill of Materials) 〔AI 事業者ガイドライン (AI 開発者に関する事項)〕 適切なデータの学習, データに含まれるバイアスへの配慮, 適正利用に資する開発, AI モデルのアルゴリズム等に含まれるバイアス等への配慮, セキュリティ対策のための仕組みの導入, 検証可能性の確保, 最新動向への留意, 関連するステークホルダへの情報提供, AI 提供者への「共通の指針」の対応状況の説明, 開発関連情報の文書化, イノベーションの機会創造への貢献 〔分析・機械学習のプロセスモデル〕 CRISP-DM (ビジネス理解, データ理解, データ準備, モデリング, 評価, 展開・共有), CRISP-ML (ビジネスとデータの理解, データ準備, 機械学習モデルの作成, 機械学習モデルの評価, モデル展開, 監視と保守)
6	フィジカルコンピューティング	信号処理・制御の仕組み	D/A 変換, A/D 変換, フィードバック制御, フィードフォワード制御, MPU アーキテクチャ
		半導体の種類と特徴	IC, LSI, CMOS, バイポーラ, コデザイン, ロジック半導体 (ASIC, FPGA, SoC), メモリ半導体, アナログ半導体, ディスクリット
		組込みシステムの構成部品	マイクロプロセッサ, マイクロコントローラ, DSP (Digital Signal Processor), D/A コンバータ, A/D コンバータ, 回路素子 (コンデンサ, コイル など)
		ハードウェア設計	〔回路設計・論理回路〕 NAND 回路, フリップフロップ, タイミングチャート, 低消費電力化
7	オペレーティングシステム	オペレーティングシステムの機能	マイクロカーネル, カーネルモード (スーパーバイザーモード), 特権モード, 非特権モード, リンケージエディタ, 仮想記憶管理, タスク管理, 記憶管理, マルチブート
		ジョブ管理・タスク管理	ジョブスケジューラ, マスタスケジューラ, タスクと状態遷移, プリエンプティブ方式, ノンプリエンプティブ方式, 静的優先順位方式, 動的優先順位方式, ラウンドロビン, SJF (Shortest Job First), FCFS (First Come First Served), リソーススタベーション
		入出力管理・記憶管理	〔入出力管理〕 スプーリング, バッファプール, メモリマッピング, 直接記憶アクセス (DMA), メモリマップド I/O, I/O マップド I/O 〔実記憶管理〕 記憶域管理アルゴリズム (ファーストフィット, ベストフィット, ワーストフィット), メモリ

			コンパクション 〔仮想記憶管理〕 単一仮想空間方式，多重仮想空間方式，動的アドレス変換（DAT），TLB（Translation Lookaside Buffer），デマンドページング，ページリプレースメント，LRU，FIFO，ワーキングセット
8	施設管理技術	施設管理技術	建物管理（免震装置，サージ防護デバイス（アレスタ） など），消火設備（泡消火設備，ハロゲン化物消火設備，不活性ガス消火設備 など），データセンターファシリティスタンダード（ティア（Tier）基準），データセンター総合エネルギー効率指標（GEC，PUE，ITEE，ITEU など）

大分類 5：システムの開発・運用 中分類 22：アルゴリズム・プログラミング

【内容】

- ・データ処理の特性や開発するシステムの要件を理解しながら適切なデータ構造及びアルゴリズムを選択し，システム及びソフトウェアの開発やデータ分析などを行う又はそれらを支援するために必要な，アルゴリズムとプログラミングに関する共通的知識を問う。

小分類		項目	用語例
1	情報理論	数値表現	固定小数点数，浮動小数点数，単精度，倍精度，半精度，IEEE 754
		集合論	集合，命題，命題論理，論理演算，論理関数
		応用数学	線形代数，行列，逆行列，単位行列，転置行列，コサイン類似度，収束，誤差，ニュートン法，グラフ理論，待ち行列理論
		符号理論・計算量	符号理論，述語論理，形式言語，計算量（オーダ記法），時間計算量，領域計算量，文字コード
2	データ構造	データ構造の種類と特徴	多次元配列，静的配列，動的配列，リスト（環状リスト，連結リスト），スタックとキュー，木構造（完全2分木，バランス木，B木，B+木，AVL木，先行順，後行順，中間順）
3	アルゴリズム	アルゴリズムの種類	文字列処理のアルゴリズム，動的計画法，貪欲法，自然言語処理のアルゴリズム
		整列・併合・探索のアルゴリズム	整列のアルゴリズム，併合のアルゴリズム，探索のアルゴリズム，線形探索法，2分探索法，ハッシュ表探索法，シノニム対策
		グラフのアルゴリズム	深さ優先探索，幅優先探索，最短経路探索，ダイクストラ法，ベルマンフォード法，最小全域木（MST）
4	プログラミング	プログラム構造・データ型	モジュール分割，独立性，オーバーライド，オーバーロード，プログラムの特性，データ型

大分類 7：倫理・コンプライアンス 中分類 27：情報倫理・AI 倫理

【内容】

- ・社会や組織に与える影響に配慮しながらデジタルを安心・安全に活用するために必要な、情報倫理・AI 倫理の共通的な考え方を問う。
- ・技術者として倫理的に誤った判断・行動を行わないために必要な、技術者倫理の共通的な考え方を問う。

小分類		項目	用語例
1	情報倫理・情報モラル	情報倫理・情報モラル	デジタルシティズンシップ, 倫理的・法的・社会的な課題 (ELSI : Ethical, Legal and Social Issues), デジタルフットプリント, 情報発信における責任のリング, マイクロアグレッション, アンコンシャスバイアス, ドクシング, アテンションエコノミー, コンテンツモデレーション
2	AI 倫理・AI ガバナンス	AI 倫理・AI ガバナンス	説明可能な AI (XAI : Explainable AI), 説明可能性, 解釈可能性, 大局説明, 局所説明, LIME, SHAP, モデルカード, 人間による監視, 人間による最終判断, 責任ある AI (Responsible AI), ヒューマンインザループ (HITL), AI サービスのオプトアウトポリシー, AI 倫理アセスメント, AI ガバナンス, AI 利用ポリシー, 人工知能の倫理に関する勧告
		AI のリスク・脅威	セキュリティ・プライバシーへの懸念 (生成 AI への機密情報・個人情報の入力), 信頼性の課題, 倫理・法的リスク, AI コスト管理の課題, フロンティア AI によるリスクと脅威, ハルシネーション, 自動化バイアス, シャドーAI, ディープフェイク, AI スロップ, ワークスロップ, スロップスクワッティング
3	技術者倫理	技術者倫理	技術者の社会的責任, ホイッスルブローイング, インフォームドコンセント, パブリックインタレスト

大分類 7：倫理・コンプライアンス 中分類 28：ビジネス関連法規

【内容】

- ・他者の権利の侵害, 契約・取引上のトラブルなどが起きないように留意しながら, 安心して業務を遂行するために必要な, ビジネス関連法規に関する共通的な知識を問う。

小分類		項目	用語例
1	知的財産権	知的財産権の概要	知的財産戦略本部, 知的財産基本法, 産業財産権, 回路配置利用権, 営業秘密, フェアユース
		著作権法	無方式主義, 著作者人格権, 著作財産権, 職務著作, 二次的著作物, 送信可能化, 引用, 情報解析, 私的使用, 非享受利用
		産業財産権	特許法, 発明, 考案, 意匠, 商標, ソフトウェア特許, ビジネス方法の特許
		知的財産適用管理	職務著作, 専用実施権, 通常実施権, 知的財産の技術的保護 (コピーガード, DRM, CPRM)

2	労働関連法規	労働関連法規	労働基準法，労働者派遣法（偽装請負，二重派遣の禁止），労働契約法，労働施策総合推進法（パワハラ防止法），フリーランス・事業者間取引適正化等法，公益通報者保護法
3	取引関連法規	不正競争防止法	営業秘密の3要件（秘密管理性，有用性，非公知性），限定提供データの3要件（限定提供性，相当蓄積性，電磁的管理性）
		取引関連法規	民法（準委任契約，請負契約），中小受託取引適正化法（取適法），割賦販売法
		企業間の取引に関わる契約	外部委託契約，守秘契約（NDA），サイトライセンス契約，シュリンクラップ契約，情報システム・モデル取引・契約書，AI・データの利用に関する契約ガイドライン
5	その他デジタル関連法規・ガイドライン	その他デジタル関連法規	デジタル社会形成基本法，官民データ活用推進基本法，人工知能関連技術の研究開発及び活用の推進に関する法律（AI基本法），電気通信事業法，情報流通プラットフォーム対処法，通信傍受法，金融商品取引法，会社法，適格請求書等保存方式（インボイス制度），電子帳簿保存法，道路運送車両法，航空法，小型無人機等飛行禁止法，PL法，情報公開法，CEマーク，RoHS指令
		標準化関連	ソフトウェアの標準，OMG，データの標準（JANコード，QRコード，ISBNコード など）

大分類7：倫理・コンプライアンス 中分類29：プライバシー関連法規

【内容】

・個人情報やプライバシーに関する情報を適切に取り扱い，法令，ガイドライン，プライバシー保護の手法を踏まえた業務の遂行，システム及びソフトウェアの開発・運用を行うために必要な，プライバシー関連法規に関する共通的知识を問う。

小分類		項目	用語例
1	プライバシー保護に関する法規・ガイドライン	個人情報保護・プライバシー保護に関する法規・ガイドライン	個人情報保護法，個人情報保護に関するガイドライン，安全管理措置，個人識別可能情報（PII），個人情報データベース等，マイナンバー法，特定個人情報保護評価，JIS Q 15001，一般データ保護規則（GDPR），忘れられる権利（消去権），個人データの越境移転，十分性認定
2	プライバシー保護に関する手法・技法	個人情報保護・プライバシー保護に関する手法・技法	オプトイン，オプトアウト，第三者提供，プライバシー影響評価（PIA），プライバシーフレームワーク（プライバシー保護の枠組み及び原則）（JIS X 9250），プライバシー影響評価のためのガイドライン（JIS X 9251），暗号化消去（CE），電子透かし，秘匿化・匿名化の手法（項目削除／レコード削除／セル削除，トップ（ボトム）コーディングなどの一般的な手法のほか，k-匿名化などの高度な手法を含む），オンラインにおけるプライバシーに関する通知及び同意（JIS X 9252），同意の取得，同意の撤回，同意管理プラットフォーム（CMP），LINDDUN フレームワーク

大分類 7 : 倫理・コンプライアンス 中分類 30 : セキュリティ関連法規

【内容】

・組織においてデジタルツールやシステムを利用する際に、不正な行為に関わらないようにする、又は不正な行為につながりそうな場合に指摘できるようにするために必要な、セキュリティ関連法規に関する共通的知识を問う。

小分類		項目	用語例
1	刑法・不正アクセス 禁止法	刑法	不正指令電磁的記録に関する罪（ウイルス作成罪），電子計算機使用詐欺罪，電子計算機損壊等業務妨害罪
		不正アクセス禁止法	アクセス制御機能，不正アクセス行為，不正アクセス行為を助長する行為
2	その他セキュリティ 関連法規	その他のセキュリティ関連法規	サイバーセキュリティ基本法，サイバーセキュリティ戦略，基本理念，重要社会基盤事業者の責務，サイバー関連事業者その他の事業者の責務，サイバーセキュリティ協議会，特定電子メール法，サイバー対処能力強化法（能動的サイバー防御），電子署名法，重要経済安保情報保護法，経済安全保障推進法（基幹インフラ役務の安定的な提供の確保に関する制度（基幹インフラ制度））

■ プロフェッショナルデジタルスキル試験（仮称）
情報処理安全確保支援士試験
科目 A-1（共通知識） シラバス（案）

独立行政法人情報処理推進機構

〒113-8663 東京都文京区本駒込 2-28-8

文京グリーンコートセンターオフィス 15 階

TEL：03-5978-7600（代表）

ホームページ：<https://www.ipa.go.jp/shiken/>